

平成28年度広島市立広島特別支援学校第3回学校協力者会議概要

1 日 時 平成29年3月2日(木) (10:00～11:30)

2 場 所 広島市立広島特別支援学校 校長室

3 内 容

(1) 学校長挨拶

(2) 委員長挨拶

(3) 協議

ア 学校の現状について

- ・ 平成29年度の児童生徒数は515名で、今年度より30名増加の予定である。
- ・ 教員数も増加する。若手の教員が増えている。専門性をどう保っていくかが課題である。熱心に研修を行う教職員が増えた。公開授業研でポスターセッションを行った。本校のポスターセッションはレベルが高い。
- ・ タブレット端末をフル活用している。効果的な指導にしていきたい。
- ・ 児童生徒数増加により、教室を確保するために2棟目のプレハブ校舎を建設予定である。

イ 平成28年度学校経営計画最終評価について

- ・ 教職員の肯定的な評価が上がったことについて「授業や目標について考えることが当たり前になってきた」という先生方からのインタビューの言葉は素晴らしと思う。
- ・ 各学部の数値があまり変わらないということは価値観が共有されてきたとも言える。
- ・ 「系統的な指導」というのは、保護者にどのような情報を提供した上でそういえるのか。実際はどうかということの評価して授業改善につなげてほしい。
- ・ 保護者アンケートは答えるのが難しいと感じる人もいる。分かりやすい言葉が大切である。
- ・ アンケートは傾向を見るためのものである。誤差もある。

ウ その他

- ・ 卒業後の進路先には学校で個別のニーズに応じた対応をされていることが引き継がれているのか。学校での指導を、進路先としては引き継ぎたいと思っている。
- ・ 子どもは自分の通過したところに深い愛着をもっている。自分の心休まる場所があるのはなによりの財産である。それが学校である。
- ・ 先生方だけではいろいろな意味での限界がある。共同性という点からも地域や保護者を利用してほしい。
- ・ 人材育成は根本的な問題である。
- ・ ICTの活用は素晴らしいが、メンテナンスが大変である。
- ・ 教育課程など指導についてのマネジメントが必要である。主体的な深い学びを求めて、生活単元学習など今求められているものは何かを考えることが大切である。

(4) 委員長挨拶

(5) 学校長挨拶